

市町村教育委員と県教育委員の意見交換会の開催結果について

教育総務課

1 開催概要

本年8月から9月にかけて、県下4市村において、「県内において多発する教員不祥事問題、全国的に話題となっているいじめ問題を受けて教育委員として、今、何ができるのか、何をすべきか」をテーマに、市町村教育委員と県教育委員が意見交換を行った。

○ 開催日及び開催場所

期 日	開催場所
8月23日(木)	大町市(中信地区)
8月24日(金)	諏訪市(南信地区)
9月10日(月)	青木村(東信地区)
9月18日(火)	長野市(北信地区)

2 主な意見

別紙のとおり

(別紙)

市町村教育委員と県教育委員の意見交換会における主な意見

区分	発言団体	主 な 意 見
不祥事発生防止	市村	<ul style="list-style-type: none">・教育現場で教員を研さんする力が弱まっているため、現行の研修のあり方を検討する必要がある・不祥事発生防止には、教員同士のコミュニケーションが重要であり、悩みを一人で抱え込まないような環境づくりが大切・管理者が上から押さえつけるのではなく、日常的に心配りや目配りをすることで教員の行動の変化に気付き、不祥事の防止に繋がる・学校運営に地域が関わることで、学校に外部の人間が入ることになり、不祥事発生に対するひとつの抑止力となる・不祥事が発生した時の、市町村教委としての公表への対応に苦慮している
	県	<ul style="list-style-type: none">・不適格教員が教壇に立たないようにする仕組みづくりが必要（分限処分の適用を含む）・教員の多忙の原因とその解決策を明らかにする必要があるのではないか
いじめ問題	市村	<ul style="list-style-type: none">・いじめを無くすには、コミュニケーション力といった「社会力」を育てることが大切・学校が地域や家庭と一緒にあって、いじめに対する感覚を鋭敏にし、子どもを中心に見守ることが大切
	県	<ul style="list-style-type: none">・学校の中に地域の人が入ることで、学校と地域との風通しが良くなり、不祥事対策にもいじめ対策にもなる

区分	発言団体	主 な 意 見
その他 (教育委員会制度等)	市村	<ul style="list-style-type: none"> ・教育分野の裾野は広く、教育委員会だけで課題を処理することが困難になってきており、福祉分野など横のつながりで対処する必要がある ・学校に地域の間がたくさん関わることで、教員の視野が広がり、教員は自分の価値観と世間の価値観の間に乖離があることに自然に気付いているように感じる ・学校と市町村教育委員会が一体となって機能するのは、市町村の規模の問題ではなく、それぞれの課題を的確に捉え、そこに焦点を当てた取組をできるかどうかである ・教育委員会のリーダーシップで目指すべき指針を明確にすることで、校長もマネジメント力を発揮しやすくなる ・現行の校長による教員人事のあり方について問題意識を持っている ・市町村教委ごとに人事を行うことには難しい面があり、一定の広域性が必要
	県	<ul style="list-style-type: none"> ・県教委と市町村教委それぞれが、県・市町村でやるべきことを整理する必要がある ・市町村立小中学校の教員について服務監督権がある市町村教委が、人事についてもより責任を持つべきではないか ・開かれた学校づくりとその学校を地域が支える仕組みづくりを両面で進める必要がある ・教育委員が学校現場に積極的に関わっている市町村では、教育委員会制度の良い面が発揮され、制度として有効に機能している